あれから一週間
被災地の表情

フェーン現象による山火事で焼け出されてからすでに一週間、被災者もようやく悪夢からさめた面持ちで復旧作業に当たっている 以下は宮古、田老地区に見られる山火事から一週間目の表情—。

バラックが建ち始めた女遊戸地内 ＝宮古

"住"の心配解消せず
市も債務保証、建築急ぐ

宮古市

宮古市の山火事は住家八十一戸山林六、四〇五㌶を瞬時にして焼き尽し、十七億五千二十万円の被害をもたらした。いまわしい火災も一週間を経過し、被災者は落ちつきだけはどうやら取りもどしたがいまなお三十二世帯、百六十二人が崎山小学校講堂で、四十九世帯三百十七人が同市内の親類や知人のもとで、不自由な生活を続けている。被災者の当面の課題は、なんといっても住宅問題である。災害応急仮設住宅は三十戸（一戸一六・五三平方㍍）の割り当てで、すでに女遊戸地内十五戸、箱石地内十三戸、松月地内二戸の配分が決定し、十日ごろに着工、六月末に完工の予定だ。災害公営住宅の割り当ては二十戸（一戸二八・一平方㍍）で、全部女遊戸地内に建築される。

建設省はこの住宅を、三十六年度に十二戸、三十七年度に八戸と、二ヵ年に分けて建てる意向だが、市当局はそれでは被災者の早期救済ができないとして同省に、三十六年度中に全部が建築できるよう、強く要請している。住宅金融公庫災害復興資金で建てる被災者には、市が二千万円を限度として債務保証することにしており、市役所の係員が五、六の両日、被災地を回って希望を取りまとめる。さらに災害公営住宅と住宅金融公庫災害復興資金利用者は、手続きなどの関係で、建築が多少おくれるが、この場合、被災者の折角の復興意欲がそがれる心配を予想されるため、市ではとりあえず、これら被災者の建築資材の一部を負担して、六月中に急場しのぎの住宅を建てさせる意向である。

栄養不足で疲労つのる
望まれる食事改善

被災者は、大半が零細なイソ漁業と副業程度の農家で、貯金もない。一世帯当たり災害救助法による生業資金一万二千円と、市の生業資金一万円が、一両日中に貸し付けされるが、これだけでは生活もおぼつかず、被災者は救農土木事業やワカメの口開けなどによる現金収入の道を、すみやかに講じてくれるよう訴えている。市当局は、この要望にそって、関係方面に積極的に働きかけているが、さらに被災者の将来を推進させるため崎山漁協、同農協とタイアップ、生産資材のクワ、カマなどの農具とカギ、水鏡、カマなどの漁具を三、四日中に無償提供する手配。崎山小学校講堂の被災者は、共同炊事を行なっているが、食事は朝食がご飯、ミソ汁、つけ物、昼食が生ミソをつけたおにぎり、夕食がご飯、ミソ汁、つけ物で、これまでに副食物はソーセージとクジラの焼き肉が各一度ついただけ。被災者の間には、不満をもらす者はいないが、診療班の医師たちは「これでは栄養が不足で、疲労はつのるばかりだ」と指摘しており、食事の改善が望まれている。

山火事被災以来、宮古市役所には県内各地から衣類、現金などの救援物資が続々届き、被災者たちを感激させている。一方、地元でも宮古青年団体協議会が"三陸火災見舞街頭募金"のノボリを立て市内各所で募金運動を始めたり婦協や社福協が被災をまぬがれた市民一世帯三十円以上の募金をし活発な救済運動が展開されている。

〔写真はフトンも配給され荷物がふえた収容所の被災者たち＝田老公民館、円内㊤田老鉱業所小野心一所長㊦久保利七田老町長〕

"理想的な鉱業所再建"
救援品届き割合朗らか

田老町

六百四十世帯を全焼、二千四百四十九人の被災者を出した下閉伊郡田老町は、総額八百九万三千円の見舞い金の交給を終わり仮住宅の建設に取りかかろうとしている。百六十一戸の仮住宅建設は鉱業所関係は荒谷沢八十一戸、新田平五十戸。一般部落は畑五戸、小畑内八戸、新田五戸、宮ノ滝二戸、松内四戸、小田代一戸と決定した。建築は県がやり、敷地などの世話は町でしている。鉱業所用地の新田平以外は全部民有地で、なかにはイモを植えつけたばかりの畑を、快よく提供した地主もいる。木材は宮古市内の製材所で刻材を急いでおり、十五日ごろまでにできあがる。問題は大工で、建築ブームのおり、はたして一時に多数の職人を集めることができるか地元では心配し、請け負い業者の数を多くして、仕上げを一日も早くしてほしいと望んでいる。

田老鉱業所の被害は十三億円だが設備拡充のため三億円にのぼる機械類を発注した矢先のできごとであり、古い物の整理が促進された上に火災保険が四億円ころげこむことになった。幹部は鉱業所の事務所や住宅を建て、燃えない鉱山にすると張りきっている。送電線の焼失も東北電力のヘリコプター調査で意外に早く復旧、二日から坑内の照明と排水ができるようになった。下四番坑から始めており、あと十日間で完全排水できる。ラサ工業宮古工場の建物の一部を解体して移設し、二百五十人の労務者を収容、復旧作業を進める。十五日ごろから三〇〇㌧の電力が送られ、本格的な解体作業もはじめられる。社宅は設計などができしだい七月着工をめざしている。

田老町公民館など十ヵ所に収容された鉱業所関係従業員家族は明らかだ。夜などギターの音や歌が聞かれる。東京の本社から十台のトラックで救援品が届き、フトンも配給されだいぶ各世帯の荷物がふえてきた。身体ひとつさえ無事に保てば住宅も働く道具も会社が心配してくれると割合のんきである。町のたき出しは三日までだったが鉱業所側の準備が遅れたため四日まで行なった。五日からは田老中学校校庭に設けた炊事場で始める大ガマやバケツ、シャモジなどの道具がそろい、米や野菜、魚肉などの手配もすべてついている。

悩みはやはり"住宅"

一般の漁業の人たちは三日役場で話し合ったが、三分ノ一は自力で家を建てる。住宅公庫の融資のワクは六六平方㍍以下だけしかないため、多人数のところは受けられない。町では別途なんらかの方法をと考えている。山奥の畑部落の復興に新しい農家経営法を指導共同宿舎など思いきった構想でやろうとしている。

田老町久保町長の話　一週間たっても仮小屋ひとつ建てられなくて全く恥ずかしい。仮住宅は県でやることになったが業者の積極的な協力がないかぎり急速実現は困難だ。この点県でも適切な策を講じて一日も早く被災者に住宅をあたえるようにしてほしい。県当局に対しては議会など機関を通じて陳情しており、できるだけの助成をして立ち直りを早めたいと思っている。救援品には心から感謝している。

田老鉱業所小野所長の話　通産局、田老町、東北電力をはじめ関係商社の協力のおかげです。トランスなど一番早く届き、さっそく役立ちました。復旧に復興計画を織りこみ、理想的な田老鉱業所の再建をはかっています。一日も早く生産をあげることがみなさんへの恩返しだと思ってがんばっています。

被災地にドロ横行
宮古

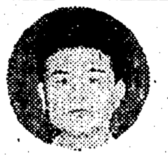
宮古市の被災地に火事場ドロボウが横行、被災者を憤慨させている。四日朝同市女遊戸農業前川八郎さん（六〇）は三日夕刻焼け跡に置いていた耕運機、精米機、押しムギ機が盗まれていた。このほか脱穀機、トタンなどの金物を焼けあとに置いて盗まれた被災者がかなりあり、前川さんは「火をかぶった機械だったが生活のたしにしようと考えていた。首つりの足をひっぱるような悪質な行為だ」と憤慨している。近く住宅再建もはじまり、建築資材が焼け跡におかれることになったが、女遊戸地内の被災者たちは自警団を組織し、盗難防止にあたることにしている。宮古署では悪質な火事場ドロの厳重な取り締まりにのり出した。

関西へ飛び火
国鉄汚職　大阪工事局次長を逮捕

国鉄新幹線汚職事件を追及している警視庁捜査二課は、五日朝大阪府警と協力、国鉄大阪工事局次長（主任技師）大野宏（四三）＝兵庫県西宮市松並町六四鉄道宿舎＝を収賄の疑いで逮捕し、大阪市北区梅田町、大阪幹線工事局と自宅を捜索、関係書類多数を押収した。また同課は贈賄容疑で東京都千代田区神田のT建設会社重役の逮捕状をとり追及している。事件は大野の逮捕と先月二十五日逮捕された国鉄新幹線総局工事局計画課長補佐、牧原浩（三二）の取り調べから一気に関西へ飛び火した。大野らの逮捕状の容疑内容は、直接新幹線本工事には関係ないが、当局は同人らの逮捕から国鉄上層部への捜査の足がかりをえたもようで、捜査の進展によっては国鉄幹部への波及も予想され注目されている。

また大野は牧原とともに新幹線工事を担当する重要な立場にあるので、現在国鉄が総力をあげてとり組んでいる東海道新幹線建設の工事に支障をきたす可能性もあるとして、国鉄内部に大きなショックを与えている。大野の容疑は、大野が国鉄大阪工事局土木課長を勤めていた三十四年四月ごろから三十五年にかけ、T社から前後三十数回の供応を受け、同社にたいし、東海道線瀬田川橋りょうの塗装、改修工事をはじめ、ほか数十ヵ所にのぼる工事を請負わせ、便宜をはかっていたというもの。この間、同社に与えられた工事は一件約一千万円のものを含め年間数億円にのぼるという。

小林二段が初優勝
アマ将棋名人戦県予選　著しい新鋭の台頭


小林二段

岩手日報社主催の第十五回全国アマ将棋名人戦県予選、兼第五回東北六県将棋大会予選は、四日午前十時から県下の有段者約五十人が参加して盛岡市公園下の県将棋道場で開き、五日早朝まで熱戦が続けられ、小林一志二段（盛岡）が初優勝した。大会は新鋭陣の活躍で波乱を呼び優勝候補の赤坂（同）桂岡四段はじめ金野、加藤、藤沢、赤坂（仁）各四段らの強豪がつぎつぎ敗退、準決勝に進出したのは沢田三段、吉田（誠）石川、小林各二段の新顔ばかりだった。県代表をかけた決戦は吉田（誠）二段対小林二段と盛岡勢同士で争われ、相矢倉から小林二段が先攻、好手を連発して難戦の吉田二段を押し切った。小林二段は二十六歳、盛岡市内で食品加工業を営んでいる。成績次のとおり。

①小林一志二段（盛岡）②吉田誠二段（同）③石川若雄二段（松尾）④沢田猶吉三段（盛岡）⑤藤沢徳次郎四段（同）⑥勝田恒晴二段（水沢）⑦赤坂陽平四段（盛岡）⑧桂彦次郎四段（同）

幼児、三輪車にひかる

五日午前八時ごろ、花巻市五日市農業高橋馬哲さんの長男孝之ちゃん（三つ）は、自宅近くの道路を横切ろうとしたところを同市藤本佐武郎（二一）運転のオート三輪車にひかれ、頭に三週間のケガをした。

バイクモーター店に突っ込む

四日午前六時半ごろ水沢市柳町国道で胆沢郡胆沢村南都田柳原農業千田清人さん（二二）の運転するバイクモーターがスピードの出しすぎからカーブを切りそこね同市柳町菓子商小野民雄さん方に突っ込み、菓子ケースなどを破損した。損害約六千円。

バイク盗難

盛岡市紺屋町飲食業中野喜八さん（三〇）は、四日午後八時から同九時半までに、同市本町中野六郎さん方前路上に置いたバイク一台（二万五千円相当）を盗まれ盛岡署に届け出た。

県下の交通事故

◇六月三、四日の事故　五件
死者　一人
傷者　一〇人
◇一月からの累計　七三五件
死者　三四人
傷者　九七人

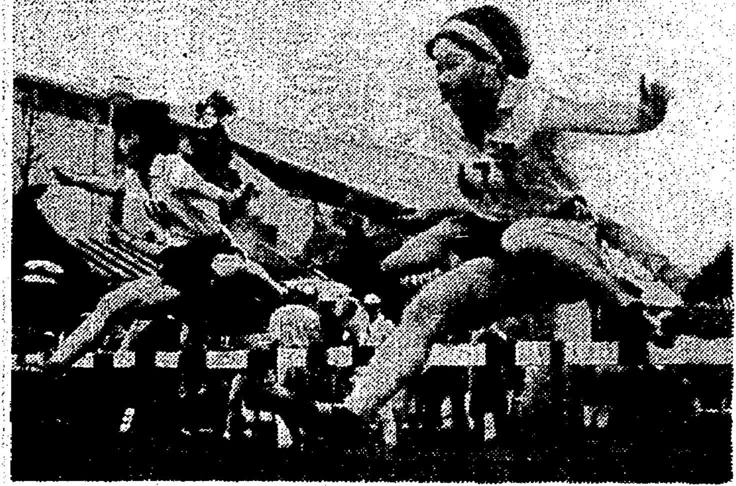
天気予報

【内陸・沿岸】五日夜は南のち西よりの風やや強く、曇りがちで時々にわか雨降り、所によっては雷をともなう。六日は西よりの風晴れ時々曇りだが、山沿いでは一時にわか雨の所もある。

【海上】五日夜は南のち西よりの風やや強く、引き続き風波ある。六日は西よりの風多少風波がある。

ラグビーに盛工優勝
高校総合体育大会　最終日

第十三回県下高校総合体育大会最終日の五日は、午前八時半から陸上、ラグビー、柔道、弓道など計十三種目が盛岡市内の十四会場で"若い力"を競った。この日は早朝から小雨がぱらつき陸上、サッカー、ラグビー、ハンドボール、ソフトボールのグラウンド競技は悪コンディションだったが、各会場にはブラスバンドつきの各校応援団や熱心な観衆が大勢押しかけ連日の好闘で汗ばんだユニホームの各選手におしみない拍手をおくった。



〔写真①陸上全日制女子80㍍H一組の接戦②柔道定時制団体二回戦花南中嶋対釜石三浦の熱戦〕

陸上

（県営グラウンド＝午前10時半現在、気温一五度、湿度85％、南の風一・五㍍）

▽女子八十㍍ハードル（全日制）①本所順子（盛二）14秒5②長岡（久保）15・0③鈴沢（盛岡市立）15・4④鈴木（高田）⑤小笠原（盛二）⑥盛田（前沢）

▽女子砲丸投げ（全日制）①窪田瑞（宮古）11㍍42②井上（盛）11・39③田中（一関一）10・18④山田（盛）⑤村上（水沢）⑥坂平（盛二）

（定時制女子）①上綱谷ヨシエ（盛一）7㍍42②貫段（花巻）7・34③後藤（江刺）7・28④小原（花巻）⑤小久保（黒沢尻）⑥菅原（一関一）

▽女子走り高とび（定時制）①早川昭子（黒沢尻）1㍍20②高橋（同）1・15③高橋（花巻）1・10④猫平（盛一）1・10⑤桜山（一関一）⑥沢藤（盛一）⑥佐藤（黒沢尻）

▽女子走り幅跳び（全日制）①安部邦子（水沢）4㍍47②鈴沢（盛岡市立）4・39③八重樫（北陵）4・31④部馬（黒北）⑤佐々木（猪沢）⑥四戸（高田）

▽男子八百㍍（全日制）①久保久男（一戸）2分06秒7②田口（盛工）2・08・5③高橋（花巻）2・09・4④立花（福岡）⑤小野寺（花北）⑥佐藤（北陵）

▽男子五千㍍（定時制）①山崎谷雄（松尾）16分33秒6②秋田谷（同）16・47・4③千葉（一関一）16・58・6④田上（盛農）⑤山影（黒工）⑥佐々木（盛一）

▽男子円盤投げ（定時制）①阿部辰巳（水商）35㍍84②瀬川（杜陵）35・83③小原（黒商）31・84④井上（同）⑤菅野（同）⑥滝沢（黒工）

ラグビー（県営ラグビー場）

▽決勝
盛岡工　8〔5—0、3—3〕3　盛岡農

ハンドボール（厨川中）

◇男子▽三位決定戦
盛商　9〔4—4、5—1〕5　岩手高
▽決勝
盛一　8〔4—2、4—2〕4　花巻北

サッカー（岩山グラウンド）

◇全日制▽準決勝
遠野　2〔2—1、0—0〕1　大槌
盛商　4〔2—0、2—0〕0　盛一

バスケット（盛岡体育館）

◇全日制男子▽準決勝
盛工　60—23　水沢
盛商　48—36　盛一
◇全日制女子▽決勝
盛岡市立　34〔22—9、12—13〕22　岩手女

柔道（武徳殿）

◇定時制団体▽一回戦
黒工　4—0　松尾鉱山
摺沢　3—2　沼宮内
▽二回戦
一関一　4—0　大槌
釜石　2—1　花巻南

医大二位、岩大三位
関東北学生馬術大会

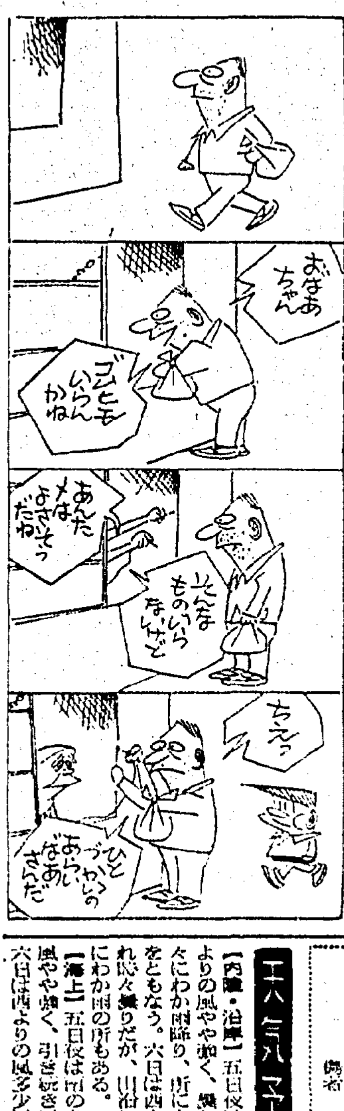
第六回関東北学生馬術大会は、四日福島市福島競馬場で岩手医大、福島大、岩手大、東北大、茨城大宇都宮大、群馬大医学部の七チームが参加して行なわれ岩手医大が準優勝、岩手大が三位を占めた。

バンビちゃん誕生
水沢見分森遊園地　子らの人気集める

水沢市見分森遊園地に、ことしもまためんこい子ジカが生まれた。同園のシカはオス、メス各六頭いるが、三日夜、一頭がかわいい子ジカを出産した。子ジカはまだ足腰が弱く、よちよちと母ジカのあとを追い、子どもたちの人気を集めている。

〔写真はめんこい子ジカ〕

茶の間さん
改田昌直


おばあちゃん
ゴミモいらんかねー
あんたメはよさそうだね
そんなものいらないけど
ちえっ
ひとづかいのあらいばあさんだ

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。